

地域ネットワーク ニュース 第25号

内容

- 1 地域リーダー応援講座開催
.....1 ページ
- 2 地域で育む BOSAI 力講座開催
.....2 ページ
- 3 『地域の底力』実践プロジェクト
取組事例紹介.....3 ページ
- 4 38 地区連合町内会長による情報
交換会開催他
.....4 ページ

▼はじめに

このニュースレターは、八戸市連合町内会連絡協議会での取り組みや八戸市内の連合町内会・町内会・自治会での活動などを紹介し、相互の情報共有や各町内会等での活動に役立てていただくこと、さらには、市民の皆さまにもお読みいただき、町内会の活動への関心を高めていただくことを目的に発行するものです。

地域リーダー応援講座を開催しました!



令和3年1月21日（木）、八戸グランドホテルを会場に『地域で育むBOSAI力「準備」講座』を開催し、町内会、自主防災会関係者など27人が参加しました。

講師の岩手大学国際教育センター教授 松岡洋子氏が「やさしい日本語」をテーマに、災害時の外国人とのコミュニケーションについて講演しました。松岡氏は「英語なら外国人にも伝わる」、「ジェスチャーは世界共通で分かる」といった**日本人の思い込み**を指摘し、在日の外国人なら、簡単な日本語で話した方が伝わることもあると述べた上で、「やさしい日本語」での表現の例をいくつか紹介しました。

また、昨年10月に上長地区で実施された、外国人と地域住民による合同防災訓練の内容も紹介し、「外国人との日頃からの交流が重要」、「避難時には、外国人にも役割を与え協力してもらう」ことなどを述べられ、参加された皆さんは、地域での外国人と積極的に関わる重要性を学ぶことができました。

→ 上長地区で開催した『地域で育むBOSAI力講座』は2ページに紹介しています。



地域で育むBOSAI力講座を開催しました。



◆地域住民向け講義の様子◆



◆やさしい日本語の例（3密を避ける）◆



◆ロールプレイの様子◆



令和 2 年 10 月 18 日（日）、上長公民館を会場に日本人と外国人と一緒に災害時の対応を学ぶ『地域で育む BOSAI 力講座』を開催し、上長自主防災会の住民と同地区にある縫製業「東京ドレス八戸モード」のフィリピン人技能実習生の 31 人が参加しました。

この講座は、同じ地域に住む日本人と言語の異なる外国人が互いに知り合い、協力し合うことで防災力を高めていこうと八戸国際交流協会と八戸市連合町内会連絡協議会、八戸市の共催で初めて実施しました。

第 1 部は、日本人と外国人に分かれ、フィリピン人実習生は八戸市防災危機管理課の職員から災害時の避難ルート、一番近い避難所、必要な情報の入手方法などについて説明を受けました。一方、地域住民は、岩手大学国際教育センターの松岡洋子教授から、外国人が避難所に避難してきた時、「やさしい日本語」でどのように情報交換をすればよいかの講義を受けました。

第 2 部は、避難所でのコミュニケーションを想定したロールプレイに取り組み、「やさしい日本語」を使ったコミュニケーションを体験しました。フィリピン人が避難所に避難してきた外国人役、地域住民が避難所のリーダーや、受付等のスタッフ役になりました。地域住民は避難所でのルールなど、「やさしい日本語」を使って説明に挑戦しました。受付役の地域住民は、実習生から氏名、住所、年齢、食料や着替えを持ってきているかを聞き取りしましたが、意思疎通に苦労していました。

最後に、松岡教授から「日本人の皆さんには、やさしい日本語や身振り手振りを交えた外国人とのコミュニケーションを身につけていただきたい。防災訓練やお祭りなど機会を作って町内会の皆さんと外国人の皆さんが交流することが、なによりも重要。」と話がありました。

『地域の底力』実践
プロジェクト取組紹介

平成 28～29 年度実施

「島守弁ミニ事典作成とその活用による島守弁伝承」

★ 島守地区自治会連合会 ★

～ことばでつなげる地域の歴史～

これまで「地域の底力」
実践プロジェクトに取組んだ
地域を紹介していきます。



📖 島守弁を後世に残すために…

島守地域は、縄文時代から人が暮らしてきた跡がある豊かな盆地です。この島守で使われてきた「島守弁」は、南部八戸の他の地域とは違った独特な方言です。

しかし、最近はテレビ等の影響で子どもたちはもちろん、大人も「島守弁」をほとんど話さなく、話せなくなりました。

言葉を失う危機感を持ったことをきっかけに、歴史や風土、伝聞と共に「島守弁」を保存・継承し、子どもたちの郷土愛を育み、他の地域にも島守を知って欲しいという気持ちから、プロジェクトに取り組むことになりました。

📖 「島守弁ミニ事典」の刊行が決定!! 先生は地域の大先輩方

プロジェクト会議を経て、「島守弁ミニ事典」の刊行が決定しました。

掲載する島守弁を収集するため、地域の高齢者が集まる機会があれば何度となくお邪魔し、聞き取り調査を行いました。

聞き取り調査の作業を通じて、地域のことを深く知る良い機会になりました。

地域の皆さんから聞き取った島守弁と合わせて、南郷歴史民俗資料館に勤務していた方から譲り受けた資料や、南郷歴史民俗の会の外館会長が収集していた島守弁リストも提供いただき、最終的には約 1,800 語を収録することが出来ました。島守弁の独特なイントネーションを伝えるため、地域のネイティブスピーカーの音声を収録した DVD も作成しました。

📖 事典作成をきっかけに広がる島守弁の輪と郷土愛

プロジェクト終了後も、結集会議で案が出されていた島守弁のかるた作成し、かるた大会を開催するなど、ミニ事典を最大限に活用した取組を続けています。

これらの取組を通し、子どもたちへ島守弁を伝承していくことで郷土への誇りを育むことと、併せて他地域への PR を進めていくことで、島守地域の活性化を目指していきたいと思ひます。



◆ 島守弁ミニ事典と地域のネイティブスピーカーの音声を収録した付属 DVD ◆



◆ 大入り満員だった島守弁に触れる会 ◆



◆ 島守小学校での炭焼教室(島守弁で作業説明) ◆



◆ 島守中学校での歴史講座 ◆



◆ 島守小・中学校の子どもたちが絵札をデザインした島守弁かるた ◆

「with コロナ」地域コミュニティ支援事業を実施しました。



◆ 配布した物品 ◆

八戸市では新型コロナウイルス感染症の影響で、新たな生活様式の変容を求められている中、マスクや手指消毒液など、感染防止に有効とされる物品を、地域の負担軽減の観点から市が一括購入し、連合町内会を通じて、町内会・自治会などの地域コミュニティ団体に配布する事業、「with コロナ」地域コミュニティ支援事業を、市連合の臨時事業として実施しております。

この事業は、コロナ禍においても安心して地域活動を行うことができる環境づくりについて支援することを目的としており、これまでに3回、物品の配布を行いました。

不動産関係団体との意見交換会を開催しました。



不動産事業所の
カウンターに
置いていただい
ております。

◆ 加入促進ミニのぼり ◆

令和2年12月15日(火)、「不動産関係団体との意見交換会」を開催しました。

この意見交換会は、平成25年9月に協定を締結している(公社)青森県宅地建物取引業協会八戸支部、(公社)全日本不動産協会青森県本部、八戸市連合町内会連絡協議会と八戸市により定期的に開催しています。

町内会加入率の推移や現在の取組について現状把握と情報共有後、集合住宅へのごみ箱設置や加入促進について課題や方策について意見交換を行いました。

38地区連合町内会長による情報交換会を開催しました。



令和3年2月8日(月)、「38地区連合町内会長による情報交換会」を開催しました。

情報交換では、町内会退会者対策としての町内会費の取扱いやごみの出し方、集積所問題等について、情報交換を行いました。

編集発行：八戸市連合町内会連絡協議会（事務局：八戸市総合政策部市民連携推進課）
〒031-8686 八戸市内丸1-1-1 市庁舎本館4階
電話番号：0178-43-9182 FAX 番号：0178-47-1485
ホームページ：

八戸市 市連合

